

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 13 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名 | 音響数値解析小委員会 | 主 査 名：佐久間哲哉 就任年月：2007 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学本委員会 (音環境運営委員会) | 委員長名：井上勝夫 主 査 名：大鶴徹 |
| 設 置 期 間 | 2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・音場解析における境界条件に関する知見集約 ・新規ベンチマーク(吸音境界を有する室内音場)の作成 ・ベンチマークホームページ(AIJ-BPCA)の運用・管理 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：有 | |
| | 佐久間(東大) 富来(大分大) 横田(小林理研) 河井(関西大) 大鶴(大分大) 堀之内(京大) 坂本(東大) 大嶋(新潟大) 安田(東大) 鈴木(九大) 大久保(小林理研) 鬼束(ヤマハ) 鶴(日東紡音響) 石塚(清水建設) 榎本(サイバネット) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | | |
| 2007 年度予算 | 95,000 円 | ホームページ公開の有無：有(暫定) 委員会 HP アドレス： http://gacoust.hwe.oita-u.ac.jp/AIJ-BPCA/comp_subcom.html |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数 | 4 回(2 月委員会を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | 1. 日本建築学会大会、日本音響学会秋季研究発表会・春季研究発表会などで継続的に研究成果を公表している。 |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 年 4 回の委員会開催を予定 2 月末に委員会を開催し達成予定。 2. 境界条件に関する知見集約 全委員の発表会、データベース作成を実施。 3. 新規ベンチマーク問題の作成 作成完了、参照用の実測を計画。 |
| 委員会活動の問題点・課題 | 1. 今年度は各地域で研究の基盤を固める活動を重視したため、成果物の完成には至っていない。来年度は成果物をシンポジウムで公表することが課題となる。 2. 来年度は成果物をシンポジウムで公表し、さらに次のステップで図書の刊行につなげることを課題としている。 |

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

| | |
|---------------------------------|--|
| 総合評価 (4段階評価) | B |
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>2007 年度の活動状況の詳細を以下に記述する。</p> <p>本小委員会では 2006 年度までに音響数値解析に関するベンチマークプラットフォームを立ち上げ、当該分野の研究者・技術者に情報提供を行い、一定の成果を得た。</p> <p>今年度は昨年度までのベンチマークプラットフォームの運用管理を継続するとともに、新規テーマとして音場解析における境界条件の取り扱いに関する研究活動を展開することとした。本テーマは音響数値解析技術の実務レベルへの普及を考えた場合、極めて重要課題であり、関連する知見が散在しているのが現状であるため、今年度はその集約に努めることとした。</p> <p>委員会は予定通りの年 4 回を開催した。各委員は既往研究の整理、新規研究の実施を通して、それらの成果を持ち寄って紹介した。加えて、成果物としての既往研究リストの作成に取り組んだ。さらに来年度に向けて、本テーマに関連する新規ベンチマーク問題、具体的には吸音境界を有する室内音場問題を設定し、参照データを得るための実測計画を立てた。</p> <p>以上、基本的には計画に従って研究活動が進められ、来年度に向けての準備は整ったが、当初の目標であった知見収集は完了しておらず、その活動は継続予定である。その点のみマイナスとして、総合評価を B とする。</p> |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。